

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月23日(金)

《幸せになるために - 要らないものから自由になる - 》

今日の福音(マタイ 13・18 23)は、種を蒔く人のたとえ話です。

今まで私は、数多く『幸せ』とか『幸福』という言葉を使って話をしてきましたね。しかし今日心に浮かんだのは、「幸福というものは持っているか持っていないかの問題じゃなくて、要らないものに自由になっているかどうかの問題である」ということです。本当に要るものを手に入れようとするのは、当然なことだと思います。しかし、要らないものを手に入れようとしているのが、ほとんどの人の生き方ではないでしょうか。だから傷を受け、いつも幸せから遠ざかっているのではないかと思います。

では、要らないものとは何でしょうか。たくさんありますね。憎む心、物に対する欲、人の上に上がろうとする心で知識を求めること、その知識によって高慢になってしまう心、・・・もう数えきれないくらいたくさんあります。それらの要らないものを求めているのではないかと反省してみましょう。

しかし、「要らないものから自由になる」ということは、易しいことではありません。上手に美しく生きた聖人やいろいろな人々の生き方を考えてみると、要らないものに欲を置かなかつたからそのように生きられたのだと思います。そして自由を感じ、苦しい環境の中でも笑顔を見せることができたのでしょう。私も、“自分にとって要らないものは何だろう”と考えてみました。結構たくさんありました(笑)。

私たちが握ろうとしているものは何でしょうか。たとえば、若さとか健康がありますね。「若さを保ちたい。」「健康を保ちたい。」と思います。しかし、それはできないことです。それならば諦めて、要らないことにエネルギーを使うことから自由になる方がよいでしょう。心配しながら健康を求めてももっと悪くなるより、健康になれると思います。そのような、イエス様の教えた自然な論理を持てれば、もっと人生が豊かになるのではないかと考えてみました。

よく考えてみてください。私たちが求めているものは本当に必要なものでしょうか。それを求めることによって、もっと悪くなっていないでしょうか。そのようなことを考えてみたら、もう少し知恵が与えられると思います。

もう一つ、このたとえ話を読んで思い出したことです。

イエス様の生まれ育った時代の環境は、どこもそうだったのかもしれませんが、たとえ話の風景を見ると、田舎を思い出させるものばかりですね。町ではできない、考えられないものばかりです。今日の福音も、農夫の物語ですよ。農夫とは、自然の筋道に詳しい人々です。その季節に何をしたらよいか分かっているだけでなく、季節をさらに細かい時期に分けて、今は何をすべき時期なのかも、よく分かっています。つまり、自然をよく分かっている人々です。私たちは、神様によって創造され

たものに目を注ぐ時間が多ければ多いほど、神さまのみ心を広く深く理解できるのではないかと思っ
てみました。

私の幼年時代は、食べ物が多くなくておなかをすかせてはいましたが、学校から帰れば子ども達が集
まって、一緒にいろいろな遊びをしました。それに比べて、今の子ども達は、コンクリートの中で、
パソコンやゲーム機だけを求めて育っています。本当に大事なものを失って生きているのではないか
と思います。私たちがそれらの大事なものを失うような環境を提供しているのではないか、反省する
べきでしょう。

とにかく、神さまが作られた全てのものには必ず意味があります。そしてその中には、生命力があ
ることをもう一回黙想してみましよう。

ありがとうございました。